

## 現状のご報告

すでに先週末より PTA ホームページ <http://SaveOurJapaneseSchool.org> にてアナウンスさせていただきますように、今週は校舎売却について大きな動きがある可能性があります。そこで会員のみなさまに現状をご報告します。

### [審議会の動き]

14日の水曜日に審議会役員会が行われました。この席で、今週金曜日の23日に行われる理事会にて校舎売却の機関決定を行う方針が確認されました。坂本会長はこうした結論に至った理由をつぎのように説明されたということです。

「理事会としては、意を尽くして保護者に説明してきた。これにより保護者の大方の理解は得られたと考えている。また、一部の保護者は細かい数字についていろいろ言ってきているが、自分たちの子供がいる間だけは売却しないでくれという気持ちが見え隠れしている。(結局のところ)これからの8年間やその後について審議会以外にどこが責任を取れるのですか?」

23日の理事会では、理事による投票が行われると思われます。

### [PTA タスクフォースのその後の成果]

審議会およびGJSの財務状況について新たな知見が得られました。詳しくはPTAホームページをご覧くださいとして、たとえば赤字の原因は従来審議会が主張されてきたように生徒数の減少が最大唯一であるとされてきたのとは違って、大きい順に、審議会経費の増加、生徒数の減少による授業料の減少、利子収入の減少であると分析しています。つまり経費の削減を伴わないと真の赤字削減にはならないということです。こうした理由から、私たちは、審議会全体の財務は放置することはできないものの、慌ててハイリスクの決断を行わなければならないほどひどい状況ではまったくないと結論づけています。

売却しなかった場合の具体的なプランを策定しました。これは現在GJSが使用していない建物等を他の学校にリースすることを核としたものです。10日ほど前にキャンパスの下見にこられた相手校の方との間ではすでにフロアプランまで含めたシェアリングの方法と大まかなリース金額について合意がとれています。これによりますと、当初5年のリース契約で、審議会案のような複雑な共用プランをとらず、年間80万ドル程度の収入が見込めます。つまり私たちのプラン(タスクフォースでは「改善案」と呼んでいます)では、審議会案とは違って運営赤字そのものをなくしてしまいます。相手校は他の複数の米国都市にもキャンパスを構える学校で、ある都市では私立の(つまり公的資金が入っていない)日本人学校とキャンパスシェアリングをしており、共用に関する様々な経験を積んでいます。いうまでもなく改善案では、私たちは8年後のことなどを心配する必要がありません。また将来に渡ってGJSの生徒数に不自然な上限を設ける必要もありません。

相手校についての校名を含む具体的な情報は近日中に手紙またはホームページにてお知らせしますが、私たちの改善案は、先の説明会で坂本会長が、PTAが具体的な案を出せば検討する、とおっしゃってくださった案として十分な資格を持っていると考えます。

### [今後の活動]

先の保護者投票結果、新しい財務分析結果、それに私たちの改善案を全理事にお知らせします。しかしそれだけで23日の機関決定を止められるかはわかりません。少ない日数で結果を出すには、会員のみなさまひとりひとりのアイデアと行動が必要です。ホームページでは在校生のみなさんを含む会員のみなさんのご意見を引き続き受け付けています。どうぞよろしく願いたします。